

令和5年度仙台市認知症施策の主な取組み

I 認知症観を広げるための、幅広い世代への普及・啓発

本市では、認知症の人が希望を持って自分らしく暮らし続けることができる取組みを推進している。そのためには、市民一人ひとりが認知症は誰もがなりうるものと捉え、否定的なイメージから認知症観を広げ、認知症に対する正しい理解を深めていくことが必要である。

令和5年度は、令和4年度に引き続き、地域での普及啓発に加え、認知症の人の想いや前向きな姿を盛り込んだ動画を制作し、より幅広い世代へ向けて動画を活用した普及啓発を図る。

1. コンセプト

(1) 認知症の人が、前を向いてその人らしく生きることができると感じられるもの

- ・診断された直後の想いから、どのようにして今に至ったのかリアルな声や体験を聞く。
- ・認知症の人が、生きがいや楽しみを持ち、前向きあるいは自然体で暮らしている姿を知る。

(2) “認知症の人”ではなく、それぞれの考えを持った“人”であると感じられるもの

- ・考えや思いは十人十色であることを伝え、多様性が感じられるものとする。

2. 発信方法(案)

- ・『せんだい Tube【仙台市公式動画チャンネル】』で配信。
- ・認知症サポーター養成講座等、各種市民向け講座で活用。

3. 活動内容

(1) メンバー

- ・認知症当事者とその家族(パートナー)
- ・東北福祉大学社会福祉学学科から推薦の学生 2名
- ・東北工業大学認知症の人と環境研究所から推薦の学生 2名
- ・株式会社未来企画代表取締役 福井 大輔氏
(オブザーバー)認知症の人と家族の会宮城県支部代表 若生 栄子氏
(事務局)仙台市地域包括ケア推進課

(2) 活動期間及び概要

ア. 企画・構想

【第1回ワーキング】 8月2日(水)10時～12時

【第2回ワーキング】 10月頃を予定

メンバー全員でワーキングを行う。どこで、どのようにインタビューを行い、どういった方法で公開、啓発活動を行えばよいか等、様々な年代や背景の方々のご意見を聞きながら形にしていく。

イ. 撮影(11月予定)

【第3回ワーキング】 11月頃を予定

ウ. 編集作業(11月～12月)

撮影した動画を編集。ショート版3～5分と、認知症サポーター養成講座等、各種市民向け講座で活用するためのロング版5～10分など、何種類か作成。

エ. 発信方法の再検討(12月～1月)

【第4回ワーキング】

完成した動画をメンバーで確認し、さまざまな発信方法・活用方法について再検討する。

II 「本人・家族・地域の方の声を聴くシート」の導入について

令和5年6月、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が成立し、今後さらに認知症の人の声(経験や想い、希望)を聴いたうえで、施策や地域づくりに活かしていくことが求められている。

和歌山県御坊市では、いつ、誰(本人)が、どのような場面で、どのようなことを話したかを記録する「本人の何気ないひとことシート」を活用し、認知症の人の経験や想い、希望を記録・蓄積・共有している。本市では、このシートを参考に、共生社会を意識し、認知症の人を中心に家族、地域の方の3者の声を聴くシートとして改変。令和5年度は、仙台市認知症地域支援推進員研修(新任期)にて取り入れ、第2回目の実践報告の際に報告を求めている。

認知症地域支援推進員等は、さまざまな機会を通じて、認知症の人と家族、そして職域を含む地域の方と関わり、声を聴いている。把握した認知症の人の想いと希望、認知症の人にとってのバリアを記録・蓄積・共有する仕組みをつくり、認知症の人とともに想いに沿った取り組みを進めていくために活用していきたい。

図1 「本人・家族・地域の方の声を聴くシート」内容(例)

本人・家族・地域の方の声を聴くシート

No.	だれが?	いつ	どんな言葉	気づき(考察・共有)
1	本人が	認知症カフェで	忘れないように、スマホでアラームを設定するのだけれど、鳴っても何のアラームだったのか分からない時があるんだよね	・本人は忘れないようにスマホを使って工夫している ・アラームと用件が一緒に設定できるアプリがないだろうか。
2	かかりつけ医から	クリニックへ挨拶のため訪問した際に	〇〇スーパーが全てセルフレジになった。うまく買い物できなくて失敗してしまい、それから家に閉じこもりがちになった患者さんがいる。	・セルフレジを使いこなすことは、認知症の人にとってはハードルが高い。他のスーパーのレジの状況はどうなのだろうか。